

**15 雪雪和雪琴**

刘雪琴 1994年2月21号 家住刘家川小学 二年级 爸爸:刘妈妈:林林、林林、林林、林林	刘雪雪 1999年5月9号 刘家山 四年级 爸爸:刘妈妈:林林、林林、林林、林林
---	--

爱好:丢手绢  
理想:当科学家

雪雪と雪琴の撮影はかなり前から続けていました。特に2002年の麦の収穫の季節に写した家族の、麦畑での農作業やお昼を食べている写真は満ち足りた生活の息づかいが感じられて、見るたびに、とても暖かい気持ちになります。

2002年6月の麦の収穫の季節で、太陽が照りつけ、灼熱の暑さに焼かれるようでした。この年、天の神様はとても情け深く思いやりがあって、10年来続いた旱魃に終止符を打ち、適切な時に雨を降らせ、風を送ってくれたので麦の生育はとてもよく、麦の穂もしっかり実り、村の人たちの顔には喜びが溢れていました。

刈り入れの時期は、どの家も老幼男女すべて一家を挙げて仕事に向います。雪雪の家のロバ車が昼食を届けに行くのに、私がついて行きますと、山間のくぼ地にやってきました。ここには雪雪の家族以外にも何家族か他の家の人たちがいました。大人は麦を刈り、男の子は背に麦を運びます。彼等は谷の下から自分の体の2倍もあるような麦の束をよろよろしながら担ぎ上げてくるので、その顔はそれぞれ真っ赤です。どんなに暑くても長袖長ズボンを着な



麦畑伝食事風景

ければなりません。さもなければ、麦のノギが肌を刺して血をにじませることになるでしょう。

お昼ご飯の車が来ると、雪雪の家族は仕事を止め、刈り取られてきれいになった麦畑に輪になって座って、<sup>ちまき</sup>粽を食べ、お粥をすすり、話したり笑ったりとても楽しそうです。彼等の心のこもった招きを受けて、私も‘黄米紅棗’の粽を2個頂き、その甘く滋味のある味と、明るく快活な雰囲気を楽しみました。未だに忘れられません。

雪雪は粽を食べ終わると、粽の葉をロバのところに持って行き食べさせ、嬉しそうに麦畑で踊り始めました。豊作を喜び、生活も保障されたことが嬉しいのです。私も太陽のざらざらした陽射しで目がくらむのも構わず、地面が熱気で沸騰する中で、3時間以上もここにいました。少なからぬ得がたい貴重な写真

撮ることも出来ました。これらの写真は、今、黄土高原で生きる人々の生活のありのままの一側面を写したものです。

雪雪は長女であり、二番目の雪琴と三番目共に女の子で、四番目がやっと男の子です。写真を撮る時はいつも心して姉弟と一緒にいるところを写しました。お姉さん達が弟をととても大事にしている様子がよく分かります。彼女達は小さな頃から誰が家の中心なのか自ずと知っているのです。何年か後、彼女達が結婚し親となった時、(他の女達と)同じように家族の血筋が絶えないよう全力を尽くすのです。(田井記)

